

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ頼田		
所在地	福岡県飯塚市勢田173番地3		
自己評価作成日	平成30年01月17日	評価結果確定日	平成30年03月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成30年02月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との繋がりを大切にし、地域の行事に積極的に参加し地域の方々と笑顔を共有できるように楽しく安心して暮らせる環境を提供しています。ホームの横には公園があり、桜の木が沢山あり春には花見が楽しめ、毎年桜の木の下でテーブルを囲み料理を準備し入居者様、職員全員で花見を行っています。寝たきりにならないように運動、レクリエーション、イベント等に力を入れています。希望があれば演劇やコンサート観賞、野球観戦など個別対応も行っています。リビングは床暖房が施され快適に過ごせるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほほえみ頼田」は、飯塚市郊外の自然に恵まれた環境の中、昨年、新しく建て替えられた介護付有料老人ホーム併設の1ユニットのグループホームである。リビングには床暖房を設置し、障子やクロスにこだわり、ホーム全体を和の雰囲気に設えて、利用者が心地よく暮らせるよう配慮している。提携医による月2回の訪問診療と緊急時の対応、看護師、介護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。地域の方の温かな協力の下、盆踊りや運動会等、地域行事にも積極的に出かけ、交流を深めている。働きやすい職場環境の下、人柄の良い職員が定着し、チームワークを発揮して取り組む法人内事業所との合同レクリエーションや、野球観戦、演劇、映画鑑賞等の個別の外出によって、利用者の笑顔を引き出し、楽しい暮らしの支援に取り組むグループホーム「ほほえみ頼田」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し理念を職員と共有して実践に繋げている。	理念をホーム玄関の見やすい場所に掲示し、日頃から目にする事で共有している。ミーティング時に、改めて理念について話す機会を設け、職員は常に笑顔で利用者に接し、楽しい暮らしの支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の盆踊り、老人クラブ運動会などに参加して地域の方々との交流を深めて行くことに取り組んでいる。	地域の方からの声掛けで、盆踊りや老人クラブの運動会、どんど焼きに参加し、地域の一員として交流を深めている。産業祭りや光が丘学園の学園祭に出かけたり、同一法人のグループホームと合同で行う行事やレクリエーションは、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊などの研修を行ったり、専門職として認知症の理解を深める研修を行い、地域の方々の支援に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に行事や利用者様の状況報告を行い、行事や災害などの助言を頂きサービス向上を目指している。	運営推進会議は、利用者代表を始め、多くの地域代表、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月毎に年6回開催している。ホームから、利用者の状況やホーム運営、行事予定の報告を行い、参加委員から、意見や情報提供を受け、出された意見はサービスの向上に活かしている。	日程を調整して、年に1回でも、家族が参加出来るよう配慮し、ミニ勉強会の実施や利用者と一緒にレクリエーションを体験してもらおう等、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と事業所と連絡をとり、ケアサービスを伝え分からない事はすぐ聞くようにし助言をいただき協力関係を築くよう取り組んでいる。	ホームの利用状況や事故の報告を行ったり、疑問点や困難事例を相談する等、連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、アドバイスや情報提供を受けている。また、代表が、行方不明者徘徊模擬訓練に参加する等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員、身体拘束をしないケアを理解し実践している。入居者様は行動に危険のない範囲で自由に過ごされている。見守りをし身体拘束しないケアに取り組んでいる。	内部や外部研修を受講する事で、禁止となる具体的な行為について、改めて理解している。身体拘束が利用者にも与える影響について、日頃から、申し送りや業務の中で気付いた時に話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員がミーティング、研修に参加し虐待を見逃さないように注意を払い異常があった場合はすぐに報告を行い全員で情報共有し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、職員が制度に対する理解を深めるよう努めている。	外部の研修に参加した職員が、内部で伝達する事で、権利擁護の制度についての理解を深めている。また、制度の資料やパンフレットを閲覧できるよう玄関に設置し、必要時には、制度の内容や申請方法を説明し、関係機関に紹介できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には認知症対応型共同生活介護の目的や提供場所について十分説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会時には苦情、要望等を聞き、ミーティングなどで話し合っている。	日常生活の中で、利用者の意見や要望を聴いて、出来る事から反映させている。家族については、面会時にコミュニケーションを取る中での聴き取りや、電話を小まめにかけて、意見や要望を尋ね、それらを運営に反映させている。また、2ヶ月毎に送付するホーム便りで暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所に提案箱を設置している。毎月ミーティングを開き、職員の意見や提案を参考に改善を図っている。	月1回、ミーティングと研修を合わせて実施している。職員の意見や提案等が活発に出され、職員間で検討して、ホーム運営や業務改善に繋げている。また、管理者と職員は、毎日の申し送りや日常業務の中で、気付きや気になる事を話し合い、速やかに解決に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、意見や職員の間関係性を把握するよう努め職場環境改善に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用、募集に関しては性別、年齢に関係なく採用している。	職員一人ひとりの希望を聴いて、働きやすい勤務体制を整え、それぞれの特技を活かして、生き生きと働けるよう配慮している。人柄の良い職員が集まり、職員は定着している。職員の採用、募集については、年齢や性別、資格等の制限は行っていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会などに順番で参加している。常に人権に対する意識を持つように取り組んでいる。	外部の人権学習会に職員が交代で参加している。職員会議の中で、利用者の人権を尊重した介護のあり方を話し合い、特に、利用者が不穏で難しい状況の場面での声掛けや対応の仕方については、繰り返し話し合い、利用者のプライドを損ねない対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域主催の研修や外部・内部研修に積極的に参加するようにしている。知識の向上を目指しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会等に参加し同業者と情報交換をして相談や解決方法など勉強している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の希望、不安など情報をあらかじめ知り、安心して楽しく生活できるように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見、要望を知った上でより良い支援をしている。ご家族から信頼していただけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴や趣味をよく把握し、食事の献立やレクリエーションに取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を家族同様に温かく見守り人生の先輩と敬います。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族に相談しながら、時には協力も得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各居室にご家族の写真や好きなポスターを貼ったり、お好きなぬいぐるみを置いたりしている。知人との関係が継続できるように配慮している。	利用者の知人が訪ねて来たり、病院受診の時に姉妹の家に外泊する等、馴染みの場との関係継続に努めている。また、同法人のグループホームと合同カラオケを楽しむ等、合同レクリエーションを通して行き来する中で、馴染みの関係を築いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や好みを把握し入居者同士の関係がうまくいくように見守り支援するように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は施設を紹介するなどの支援を行っている。電話で様子を伺ったり、訪問し面会している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や入居者から思いで話などを聞いてより本人本位の介護を支援するように努めています。	利用者本人や家族から、若い頃の話等、思い出話を聞く中で、利用者の興味、関心事に触れつつ、コミュニケーションを取り、思いや意向の把握に努めている。意向表出が難しい利用者には、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴、経験などを把握し、その人らしい暮らしをホームの中で過ごせるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者から目を離さず自立の人は見守り、介助が必要な人は不安なきよう介助している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やミーティング時に職員間で話し合い、今後の介護計画を検討している。ご家族や入居者から希望や要望を伺っている。	ケアマネージャーが中心となって、利用者、家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で、職員間で検討し、利用者本位の計画を3ヶ月毎に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子で気付いたことを記録し介護に役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態に出来るだけ対応し支援サービスを行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し協力のもと安全な暮らしができるよう支援していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医と密に連絡をとり対応している。	契約時に、利用者、家族と話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらっている。現在、全員が協力医療機関による月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関と、毎週訪問の看護師、介護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が来られ、状態、状況を伝え対処方法などを聞き、適切な対応が出来るように心がけている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、主治医から情報などもらい早期に退院ができるよう関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には職員、医師、家族と密に連絡を取り進めていく。	重度化や終末期については、契約時に利用者、家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に話し合いながら、主治医も交えて方針を確認し、職員全員で共有して、利用者や家族が安心して終末期を過ごせるよう支援している。昨年11月にホームでの看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはかかりつけ医に指示を仰ぐように心がけている。緊急連絡網を作成し即対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練と消火器の使用方法の確認を行っている。日頃から近所付き合いを通じた協力がある。	夜間想定避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認して、夜勤者1人で9名の利用者を避難場所に安全に誘導出来るように取り組んでいる。日頃から近隣住民に協力をお願いしている。	災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の準備が望まれる。また、2階の介護付き有料老人ホームとの合同訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの配慮についての外部研修、内部研修を行っている。ミーティング時に職員間で話し合いをしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した介護サービスについて、言葉遣いや対応も含め、職員会議や申し送り、日々の業務の中で話し合い、共通認識に努めている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、管理者が常に職員に説明し、周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせた外出や献立の希望などを聞いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などに気を付け無理のない過ごし方をして頂くよう気を付けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者には髭剃り、女性入居者には髪の手入れを心がけている。散髪は二か月に一回訪問理容師が来られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、下膳を自立されている入居者にしていただいている。定期的にホットプレートを使いお好み焼きなどをし入居者に焼いていただいている。	週3日入浴がある日は配食サービスを採用し、他の日は、利用者に食べたい物を聴きながら献立を決め、職員が手作りの食事を提供している。ショッピングモールへ外出に出かけたり、ホーム内で焼き肉パーティーを楽しむ等、食べる事を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飽きずに水分摂取できるようにヨーグルトや甘酒、生姜湯、コーヒー等、喜んで摂取して頂けるように支援し、栄養バランスも考えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、週一回の訪問歯科診療で口腔内を清潔に保つようになっている。入れ歯は洗浄液に浸けるようになっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や状態を把握し声掛けや誘導を行い支援している。	重度化しても、トイレで排泄する事を基本としている。職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導で、失敗のない排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望を聞いてトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランス、便秘に良い食物、運動などを心がけ努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴してもらうように、ゆっくり湯船につかってもらえるよう心がけ、自分で入浴される方は見守り声掛けに気を使うようになっている。	月、水、金曜日が入浴日となっている。冬場は週2回であるが希望があれば、自立の方は週3回入って貰っている。自立の利用者には、さりげない見守りに対応し、利用者と職員が1対1でコミュニケーションを取り、入浴が楽しめるよう支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態をよく観察し状況に応じて休息を促したり支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人に処方されている用法、用量の確認を行い、誤薬のないよう心がけ、服用してもらう時は声かけを行うよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、掃除をできる入居者は職員と一緒にしてもらっている。カラオケが好きな方はカラオケを楽しまれたり、レクリエーションでカルタや塗り絵、貼り絵などを楽しまれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩に出かけている。地域の行事などには積極的に参加している。	自然環境に恵まれ、目の前が公園である立地を生かし、気候の良い時期は散歩を楽しみ、桜の時期には公園にテーブルセッティングをして花見を行っている。大衆演劇の観賞や野球観戦、映画鑑賞等、利用者の希望を聴いて出かける個別の外出支援にも力を入れ、利用者に変喜ばれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理している。買い物の希望があれば同行し支払い時にお金を渡し払ってもらう事も有る。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者やご家族が電話や手紙のやり取りを希望した場合はいつでもできるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が入居者にとって、不快や混乱を招かないように、音、色、光、温度等に配慮し、季節感を彩り入れ居心地良くする工夫をしている。	新しく建て替えられた建物は、和を基調として障子やクロス等細部にこだわり、利用者が集うリビングには床暖房を設置し、足元が温かく心地よい共用空間である。季節感のある飾り物や観葉植物、利用者の笑顔の写真を飾り、家庭的で温かな雰囲気のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食卓で好きな場所に座れている。ソファでは気の合った方が隣同士に座るよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れた生活用品、写真、絵、花、などを置き心地よく暮らせるよう工夫している。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を持って来てもらい、本人、家族と相談しながら、その方らしい居室となるよう配慮し、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。また、小まめに換気や清掃を行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器など個人の生活動作を把握し、状況に応じて行えることを見守っている。		